

「新人目線」の用語解説

語句よみ

第231号



今回のテーマ 株式市場に影響を及ぼす「ロビンフッター」

米国株式市場の上昇の背景には、ロビンフッターと呼ばれる個人投資家の存在があるといわれています。今回は「ロビンフッター」と、様々な投資手法を用いることで利益を追求する「ヘッジファンド」について調べてみました。

日興アセットマネジメントの新人。営業推進部門に配属され、投信や経済について勉強中。

1. ロビンフッター

“ロビンフッター”とは、米国のフィンテック企業であるロビンフッド・マーケットツ(以下、ロビンフッド社)が提供する、株式投資アプリ「ロビンフッド」を利用して取引する個人投資家のことを指します。同アプリはシンプルでわかりやすいデザインになっているほか、売買手数料を無料にしていることや、新型コロナウイルス感染拡大によって、巣ごもり時間が増加したこともあり、気軽に投資を始められるとして、投資初心者を中心に大きな広がりをみせています。1人あたりの投資額は決して大きくはありませんが、ロビンフッターの数は米国全体で数百万人にも上ることから、株価を動かす要因として注目を集めています。

また、ロビンフッター増加の背景には、コロナ禍において米国で支給された個人向けの給付金があるとされています。昨年春に大人1人につき最大1,200米ドルが支払われたことから、比較的生活に余裕のある人は、その給付金を原資として投資を開始したとみられます。2020年はコロナ・ショックによって株式市場が大きく下落した場面もありましたが、その後の反転上昇には、値下がり時に買いを増やす傾向のロビンフッターがけん引役になったとの見方もあります。

ステップアップ

2000年代半ばの日本では、“ミセス・ワタナベ”と呼ばれる、FX(外国為替証拠金取引)を利用した主婦などの個人投資家が注目されました。ミセス・ワタナベによる、レバレッジをかけて、金利差を狙った外貨買い・円売りの取引が市場に大きな影響を与えたとされています。



(次のページへ続きます)

掲載銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目録見書)をご覧ください。

さらに、ロビンフッターはSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)などを利用して、特定の投資行動を呼びかけることで、相場操縦的な投資行動を引き起こしています。その結果、短期的に株価が急変動する銘柄が現れるなど、市場の不安定要因になっているとの懸念も出ています。

こうしたことから、足元で規制当局はロビンフット社への監視を強めています。投資経験の乏しい若年層にオプション取引などリスクの高い取引を促している可能性があることや、複数回のシステム障害の発生、さらには、特定銘柄の取引制限などが問題視され、米国政府までもが注視する事態となっています。

2. ヘッジファンド

“ヘッジファンド”とは、一般的な投資信託などと異なり、機関投資家や富裕層から私募により資金を集めて運用を行なうファンドです。投資家を限定することで比較的自由的な運用が可能になっていることもあり、主に先物取引や信用取引などを積極的に活用することで相場の上げ下げに関係なく利益を追求することを目的としています。

ヘッジファンドの主な投資戦略には、①ロングショートや、②マネージドフューチャーズ、③アービトラージなどがあります。①は、ヘッジファンドの代表的な戦略であり、その多くは、同一業種の銘柄をペアにして、割安な銘柄を買い建て、一方、割高な銘柄を売り建てています。②は、通貨や債券などの先物を売買するだけでなく、金や原油などの商品先物までカバーして分散投資を行ないます。そして③は、金利差や価格差に着目し、割安な投資対象を買い、割高な投資対象を売ります。

ヘッジファンドは、空売りと呼ばれる、株価が下落することで利益をあげる取引を活用することがあります。足元の米国では、多くの個人投資家がSNSなどで情報共有を行ないながら、ヘッジファンドが空売りしている株式をロビンフットなどを通じて買い進めることで、ヘッジファンドに大きな損失が生じたことが話題となりました。

全体で2兆米ドルを超える巨額の資金を動かすとともに、短期的な取引が多いとされるヘッジファンドの動きは相場変動の一因になりやすく、1992年にはヘッジファンドによって英国のポンド危機が引き起こされたこともあります。また、運用悪化によって資金流出が拡がることで、金融市場の混乱を招く可能性もあることなどから、ヘッジファンドの動向に注視することも重要であると考えられます。

投資経験の浅い個人投資家が過度なリスクをとった場合、金融市場が大きく変動した際にパニック的に資金を引き揚げて、さらなる市場変動につながる懸念があることなどから、動向が注目されます。

掲載銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

facebook twitter で、経済、投資の最新情報をお届けしています。

ステップアップ

ヘッジファンドの手数料は、「2:20」モデルと呼ばれる運用資産の2%を運用報酬、値上がり益の20%を成果報酬として投資家が負担するケースが多くなっていました。しかし近年は運用パフォーマンスの低迷などもあり、2019年に設定されたヘッジファンドの平均値では前者が1.1%台、後者は14%台と低下傾向にあります。

